



揖斐郡学校保健会だより 第3号 令和5. 8.7

令和5年度揖斐郡教育研修総会特集号

令和5年8月2日（水）13：00～15：20に、揖斐川町揖斐川町地域交流センター「はなもも」で令和5年度の揖斐郡学校保健研修総会を実施しました。揖斐郡学校保健研修総会は年に1回8月上旬に実施しておりますが、コロナウィルス感染症のため、また令和4年度は第61回岐阜県学校保健研修総会で兼ねて実施したため、久しぶりの開催となりましたが、多くの郡内学校保健会関係者の皆様にご参加いただきました。またNPO法人ASTA様、岐阜大学医学部看護学科教授の井關敦子先生のLGBTQ+に関する有意義なご講演をお聞きしました。



本学校保健会だより及び揖斐郡学校保健会ホームページに総会の成果について掲載させていただきますので今後の揖斐郡の学校保健の取組の充実にご活用ください。

お忙しい中ご講演いただきましたASTAの皆様、井關先生、会の運営にご尽力いただきました揖斐郡学校保健会理事のスタッフの皆様、会にご参加いただきました三師会の先生方、PTA会長様、校長先生方、郡学校保健会所属部会の先生方、どうもありがとうございました。

令和5年度 揖斐郡学校保健研修総会の内容

【第1部】13：00～13：30 総会&表彰式&県大会報告

■令和5年度 揖斐郡学校保健会功労者表彰者

学校歯科医 羽田 和彦 様 学校歯科医 島村 憲優 様
学校薬剤師 金森 豊 様 学校薬剤師 伊庭 順子 様

■令和5年度 学校環境衛生調査表彰校

最優秀校 大野中学校
優秀校 谷汲小学校 北和中学校 宮地小学校
特選校 中小学校 池田中学校

- ① 歯の健康優良児童事業講評
- ② 郡学校環境衛生活動講評

※①・②に関するご講評の詳細は郡学校保健会HPに掲載させていただきますのでホームページをご覧ください。

- ③ 第61回岐阜県学校保健会報告



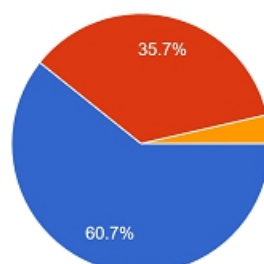
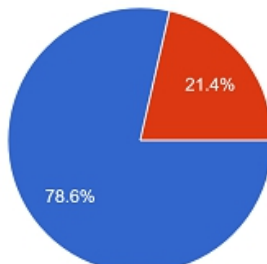
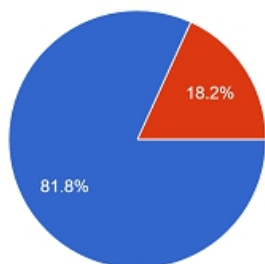
【第2部】14：00～15：10 講演

演題 「トランスジェンダー、性別不合（性同一性障害）の理解と支援 ～治療をふまえて～」

- ① LGBTQ+の概要について NPO法人 ASTA様
- ② 治療をふまえたトランスジェンダー、性別不合（性同一性障害）の理解と支援」について
岐阜大学医学部看護学科 教授 井關 敦子 様のお話
- ③ NPO法人 ASTAの方（3名）のお話（ライフヒストリー）

講演についてのアンケートについて

- (1) 講演の内容について 2) 講演の方法について (3) 講演の時間設定について



- 十分満足
- ほぼ満足
- やや不満
- 不満

(1) NPO 法人 A S T A の方のご講演について

① LGBTQ+についての基礎知識や ASTA の活動の目的のお話についての感想やご意見、学んだこと

- 幸せって何か、自分がどうしたいのかという思いや気持ちを叶えることが大切だと思います。基礎的な知識からわかりやすい言葉で教えていただきました。ALLY はどんな人もなれるし必要だと感じました。
- 他者理解がとても大切だと分かりました。また、大人の役割が大切だと実感しました。
- 概要を丁寧に説明してもらえたので、体育主任など若手の職員の参考になったと思います。
- 自分自身の体験を堂々と語る姿がすごいと思いました。ここに至るまでにたくさんの苦労があったと思います。多様な人が認められる社会づくりのためにできることをしていきたいと思いました。
- 11人に一人。左利きと同じ割合と言われるとぐっと現実味を帯びます。正しい知識のアップデートが必要だと思います。また、多様性を知り、そのことを受け入れる寛容な心が必要だと思います。自分にその心があるか、悩む子供たちに出会ったときに寄り添えるか、まだ自信がないですが心にとどめたいです。
- 性に関する内容がすごくわかりやすく、全体の流れや今ここなど、説明の仕方も大変参考になりました。LGBTQ+について、改めて学ぶことができ、自分もだれかの ALLY になれたらと思いました。
- 基本的なことも知らず、あまりに自分が今まで無知であったと思いました。基礎的なことも初めて知りました。今まで「当たり前」という固定概念に囚われた思考で過ごしてきており、LGBTQ+の方に対して偏見はありませんが、知らず知らずうちに、マイクロアグレッションを行っていたかもしれません。とても勉強になりました。
- 多種多様な人格、性格を見て、共感、味方にする、本人がどうしたいかを尊重することの大切さを感じました。他人事に思っているはいけないと、思えました。
- 生徒の前でカミングアウトする時、勇気が相当必要だったと思いました。いつかカミングアウトする時が来る・・・隠しているわけではないけれど、生徒たちの反応が怖い。当事者にしかわからない気持ちを知ることができました。そしてそれを受けた生徒の反応が先生を思いやるものだったと聞いて、素晴らしいと思いました。
- LGBTQ+についての講話や勉強をする機会が増えていますが、それでもまだ理解できていないことがたくさんあるのだと気づかされました。まずは私たち教員、大人がもっと LGBTQ+についての理解を深めることが大切であり、できることを考えていかなければならないと思いました。
- 自身が理解を深めること。誰に対しても寄り添うこと、自己肯定感の重要性を学びました。他者の性自認や性的指向に関係なく、多様性を尊重しながら、誰かの ALLY になりたいと思いました。
- 当事者としての話を聞かせていただいて、こうやって悩んでいる人はたくさんいるんだなと感じました。今でこそ今回のように気丈に話をしてくださったけど、当時はとても悩んだのだろうなと思うと理解は大切だなと感じました。身近にそういう悩みを抱えている人はいると思うのえ、そういう人たちがこの人になら相談したいなと思える1人に自分になれるように知識を身に付けていきたいと感じました。



② A S T A の方のライフストーリーのお話についての感想や意見、学んだこと

- 差別や故意がなくても傷つけることを知りました。様々な辛さ、出会った人たちとの関わりや変化を実体験をもってお伝えいただきありがとうございます。
- 自身の経験と思いを語っていただけたので、実感を伴って理解ができました。自分自身の生の体験に心を動かされました。ALLY の存在がとても大切だと思います。また、子供の近くにいる大人として何が考えるきっかけになりました。
- 私はこれまで、「こういう方々がいる」という講話があっても、LGBTQ+について他人事として捉えている部分がありました。でも今回の講話は、話してくださった方ご本人がこれまで LGBTQ+について悩んできた方々で、これまでの苦しかった経験を語られていたことに、とても刺激を受けました。自分の周りには、LGBTQ+で苦しんでいる子はいないと思っていたけれど、そうではなくて、ただ知らないだけであり、どこかに必ずいるという意識を持つことが大切だと思います。また、今回講話を聞くことができたことや、自分は教員であることから、悩んでいる児童や友人に対して手を差し伸べることのできる「アライ」でありたいと思いました。

- 衝撃でした。言葉としては知っていても、自分事としてとらえていませんでした。教員として、親として、子どもたちの Ally になれるように受け入れていきたいです。性別より人間性、人格ということが深く刺さりました。
- お一人お一人いきさつは違っても、悩みや葛藤があって今に至っている、その生の声を聴かせていただけることは、とても大切なことだと思います。これは他人事ではなく自分事であるという認識を新たにしました。また、当人だけでなく、家族など、周囲の人にとっても悩みや苦しみを抱く問題であり、だからこそ、ALLY の存在が欠かせないと感じました。
- カミングアウトするまでの苦しかった思いや悩みなどを教えていただけたことがありがたかったです。一番心に残ったことは「無意識のうちに傷つけている」ということでした。自分もそんなことがないかを問い返しながらか、自分の周りの人と関わっていききたいです。
- プールの授業で男女ラッシュガードを着ています。(自分で決めます)、折り紙を使う時、画用紙を選ぶ時、自分の好きな色を選びます、トイレは、授業中に行っても大丈夫です。(廊下に人がいない) 原岡さんが経験した苦しみは、今の小学生は少しは楽になっているでしょうか。「学校大好き」という気持ちで、子ども達には登校してほしいと願っています。環境を整えることで誰かが楽になれるなら、歩み寄りしたいと思います。
- 当事者の方の思いをお聞きして、胸が詰まりました。「知ることで、できることがみえてくる」という内容で、内面の変化について相談できる教員になりたいと感じました。
- 「自分が気づいていないだけで、周りにはセクシャルマイノリティの方がいるかもしれない。」その意識をもって、無意識に人を傷つけないように、言動・行動に気をつけていききたいと思いました。また、「打ち明けるまでには色んな苦悩があり、打ち明けることには、とても勇気がある。」もし、児童や周りの人が打ち明けてくれた時には、しっかり受け止めて、その人が生きやすくなるように、一緒に考えていききたいと思いました。

(2) 岐阜大学医学部 看護学科 教授 井関敦子先生のご講演について

① 新たに知ったこと、得たこと

- 性転換の手順。治療と副作用、手術するか治療するかなど多様なことなど、別不具合に病名が変更になったことや、医療の知識が分かりました。
- 性のあり方について認識を広められました。医学的な面からの具体的なアプローチについて理解できたことは、今後の個別相談等での対応の幅を広げることにつながったと思います。
- 心の性と体の性が一致していないことに大きな苦しみを覚えている人が多いとわかりました。心の性に体の性を一致させるために手術が必要であるが、リスクも大きく大変な手術であるとわかりました。
- トランスジェンダーの方の在り方、LGBTQ に対しての医療的な視点、LGBTQ に対する日本の遅れがわかりました。
- 同性愛に伴う日常や医療上の問題がたくさんあることを初めて知りました。トランスジェンダー当事者がいつ自認するかについて、自分が思っていたより早く自認することに驚きました。トランスジェンダーに関わる医療面を知ることができました。
- 今は、性同一性障害とは言わず、トランスジェンダーや性別不適合ということ。トランスジェンダーのうち、医療の介入が必要なものを性別不適合という。MtF、FtM との違い、手術のリスク、これからの対応についてわかりました。
- トランスジェンダーの方にとって、自らの身体そのものを自認の通りに変えていくことの大変さを具体的に知ることができました。
- 性別適合手術の仕方や、患者さんのインタビューが紙の資料とともに示されていたのでよくわかりました。また性別不適合の治療法や当事者の苦悩やトイレなども配慮、工夫が必要とわかりました。
- 手術や治療について、その副作用やリスクを知ることができました。二次性徴抑制療法、LGBT 理解増進法、性を変える手術はやっぱり難しいことがわかりました。
- 性別不適合の治療について、人によってその考え方は人それぞれであるということ。周りの大人の多様性についての理解が大切であり、子どもたちが相談しやすい環境づくりをすること。性に関する認識の必要性やつらい思いをしている現実がわかりました。
- 生徒に選択できる環境を用意することが大切であり、こちらで限定してはいけないことを知りま



した。カミングアウトの強制にならないように、生徒の選択に対して理由を聞かないということも大切だと分かりました。

- 性別に違和感を感じている人の医学的な処置について知った。手術をして終わりだと思っていたが、手術後も治療や合併症はあり、大変なんだとわかりました。治療にもいろんな選択肢があり、リスクを伴うことが分かった。それでも手術をしたいと思うくらい、当事者は悩んでいるということが心に残りました。
- 性に関する悩みを抱く人は、安心できる場のはずの病院ですら大きな悩みを抱えているんだなと感じました。少数派の人たちも多数派の人たちも1人の人間として当たり前生きていくことができる社会のあり方が必要だなと感じました。

② 学校や社会（職場）で、できそうなこと・変えられそうなこと

- 子どもへの声かけや、職場での他者理解など学校全体で理解を進めたい。PTAにも伝えていきたいと感じました。
- 性別を問わない。トイレを2つに分けない。制服を選択できるようにする。「男の子」「女の子」という呼び方を使わない。性に関することへの言葉選びに注意する。
- まずは児童に対する言葉がけ。性別で分けるのではなく、一人の人として見ていくこと。また、職場の先生方にも今日の話伝え、自分の性で悩む子供がいると理解してもらうこと。
- 「大事なものは大人の意識」というお話がありました。PTAの方とも協議し、こういった研修ができないかを相談したいです。また、子どもたちの意識の問題として、すでに総合的な学習の中で調べたりもしているので、まずは正しい知識を得ていくことから取り組んでいきたいと思えます。
- 一人一人違っているということを改めて子供たちにも考えさせてあげたい。人権教育について人権主任を中心に進めたり、子供自身が自分ごととして考えられるような活動を生み出したいと思えます。
- 教員のLGBTQについての知識や理解を少しでも深められる機会（研修）をもち、性に関する認識の共通理解、常に11人に1人ということイメージして生活すること、性差にかかる内容を問う時の問い方を考えていくようにしたいと思えました。また職員会で、LGBTQ+について職員に周知する。
- 学校全体でセクシャルマイノリティの人（子どもも大人も）が生きやすくなるような環境を作ること。自分がもっとLGBTQ+について知り、アライを表明すること。まずは子供の話をじっくり聞くこと。
- 着替えについて敏感な子へ配慮・懇談の実施や教師側の捉え方を大切にするとともに、いつでも話を聞き、寄り添うことや理解していくことの大切さを周囲の人々に広めていくこと。

令和6年度の郡学校保健研修総会のもちかたについて

(郡学校保健会理事会で今後検討していく)

- 本年度の講演がLGBTQ+というテーマで大変勉強になり、当事者の方の話も貴重で、一人でも多くの人に知ってほしい内容だった。教員だけでなくPTAの方も参加されていたので、多くの関係者が集まるのは大変だが、意義深い講演を位置づけていきたい。
- 今回のように、教育現場の現状に合った講演等を仕組んでいく。今後も今学校に必要なこと、子供達に考えさせたいことについて、必要なことを選んだ講演会にしていく。
- 今回の講演は70分ということでASTA様・井關先生が話を組み立てていただいた。今回のように時間が足りない、もっと聞きたいと思えるようなタイムリーで意義ある講演を位置づけた上で時間もそれに合わせて設定していく。また講師の先生からも「質疑応答のお時間があれば、「わからなかったことに答えることができたので、質問記入やトークセッションを設定してもらえるとありがたい」というご意見をいただいたので、次年度以降の講演会に生かしていく。
- 本年度の参加者は120名程度で、多目的室Iのキャパシティーが140のため窮屈感があったのでゆとりのある会場設定をしていく。
- 郡学校保健研修総会を含め、郡学校保健会理事会の会議はすべて13:00～15:30の間で水曜日で設定しており、三師会の先生方が午前の診察を終えて来ていただき、午後の診察に間に合うように時間は設定しているので、また県の教育課程の関係で、今後も8月の第一水曜日の午後1時頃から実施していく予定である。